

東光商事

「テラックス」好調

シールタイプ開発し手軽さ訴求

東光商事(大阪市)が開発した温感・冷感機能を持つ独自素材「テラックス」シリーズの需要が拡大している。足元では放射熱・遮熱効果によって冷感が持続する「テラックスクール」が、厳しい夏の暑さを背景に受注が伸びている。今冬に向けては遠赤外線放射で保温効果を高める「テラックスホット」を応用した新商品を打ち出した。手軽に機能を身に付けるという発想で、衣料用シールを開発。首や肩、腰など必要な箇所にシールが当たるよう衣服の内

側に貼り付けるだけで簡単に機能を付加できる。

テラックスは、テラヘルツの電磁波を発する人工鉱石を活用した素材だ。テラックスクールとテラックスホットでは鉱石のブレンドパターンを変え、性能をコントロール。その鉱石をパウダー化し、染料などと組み合わせ、生地をプリントして効果を発揮する。テラックスクールは冷却効果の高さが評価され、有力ゴルフチェーン店が採用しヒットした。その実績が他社にも注目され、今年は大手紳士服

専門店でも商品化。「バイヤー主導ではなく、トップダウンで採用が決まっていた」という。現在は、高級ゾーンからボリュームゾーンまで幅広く需要に応えている。

その分、「様々な顧客からより良い快適性を求められる」として、開発に一層力を入れてきた。今回開発した衣料用シール「ピタテラックス」は、これまでとは発想を変えてテラックスホットを応用した商品だ。使うパウダーは同じだが、特殊な技術で混ぜたインクを開発し、印刷に近い方法で基材となる織物に加工し、シール化した。インクを基材に安定して固着させるための架橋剤も開発した。

1セット320枚をA4サイズの台紙に貼り付けた状態で販売する予定。シール1枚当たりの大きさは12^ミ。温めたい体の部位にシールが当たるように肌着や部屋着、スポーツウェアな

ど手持ちの衣服の内側に貼り付け、当て布をした状態でアイロンを30秒押し当てて固着させる。同社によると、「体の部位1カ所当たり2〜4枚程度が有効」としている。